

おきなわ



作品名:「お気に入りの場所」(第9回沖縄ねりんピックかりゆし美術展 写真の部 奨励賞)
 作成者:伊藤俊雄さん(宜野湾市)

目次

- ② 特集「第10回沖縄ねりんピック記念大会開催レポート」「ねりんピック富山2018」
- ④ 受配者指定寄附金制度のご案内、募金の報告、大阪北部地震・西日本豪雨災害義援金について 他
- ⑥ 新年のごあいさつ、第61回沖縄県社会福祉大会、第21回芸能チャリティ公演 他
- ⑧ 社会的孤立対策モデル事業の報告、アクティブシニアのボランティア学習ツアー「住民主体の支え合い活動・住民相互の取り組み」を推進
- ⑩ 地域福祉(活動)計画推進研究協議会を開催、社会福祉法人次世代経営塾が開講 他
- ⑫ 日常生活自立支援事業～生活支援員研修会～、地域生活定着支援事業研修会 他
- ⑬ 沖縄県かりゆし長寿大学校大運動会を開催、平成31年度(第29期)沖縄県かりゆし長寿大学校学生募集
- ⑭ チームリーダーキャリアアップ研修会を開催 他
- ⑯ インフォメーション、寄付・寄贈者芳名、表紙の絵 他

「福祉情報おきなわ」の作成経費の一部として、共同募金配分金を活用しております。

第10回 沖縄ねんりんピック 記念大会開催レポート

沖縄ねんりんピックの概要

高齢者の生きがいと健康づくりを進め、明るい長寿社会づくりの促進を目的とする「沖縄ねんりんピック」が、今年で第10回目を迎えました。

本大会は、平成21年に第1回大会が開催されました。スタート当時の参加者は約2000名でしたが、参加者は年々増加しています。10回目の今年は、約3000名の参加があり、多くの高齢者が日頃の練習の成果を発揮する場として定着しています。

また、「ねんりんピック」の愛称で親しまれている「全国健康福祉祭」の沖縄県代表選手を選考する場でもあり、毎年9月頃県内各地で熱戦が繰り広げられています。

今回は、6月から11月にかけてラージボール卓球、テニス、囲碁など全19種目の競技が行われました。



▲還暦軟式野球交流大会で優勝した糸満OB還暦チーム

10周年特別企画 「ねんりん健康ブース」

今年の沖縄ねんりんピックは、例年開催している各競技の他、10周年特別企画として、より一層高齢者の健康づくりを推進する目的で「ねんりん健康ブース」を設置しました。健康づくり等に取り組み団体の協力を得て、健康相談や体力チェック、足型測定・靴選び相談、コンディショニング・テーピング、応急手当など、合計5つのブースを設けました。



▲ねんりん健康ブースの様子

生涯スポーツ振興の場 「ねんりんピック」

各ブースには様々な視点から健康づくりについて考えるきっかけの場として約140名の来場者が訪れ、健康づくりへの関心を高めました。

「ゲートボールをするのが日々の楽しみになって、仕事も頑張れる。全国大会にも出場することができて、あの時は嬉しかった」こう話してくれたのは、ゲートボール競技の最年長参加者である与那嶺ヨシさん(89歳)。趣味であるゲートボールを楽しみながら、現役で畑仕事も頑張っているそうです。ゲートボール交流大会が開催されたのは9月でしたが、暑さにも負けず、

仲間と共にプレーを楽しんでいました。

今大会における男女別最年長者は、女性がグラウンド・ゴルフ交流大会出場の上原マツさん(95歳)、男性はペタンク交流大会出場の照屋健心さん(92歳)でした。女性最年長の上原さんは、長年にわたり、地域や県内で開催される各種グラウンド・ゴルフ大会へも積極的に参加し、健康維持・体力づくりに取り組んでいます。男性最年長の照屋さんは、下肢に障がいがあるもののプレーに磨きをかけ、ペタンク歴は6年になります。沖縄ねんりんピックは、80〜90代の多くのシルバー世代の方々が、自分のペースで体を動かすことを楽しみ、スポーツを通して仲間との交流を深める場にもなっています。

年齢にとらわれず、活躍する参加者たち

沖縄ねんりんピックは、生涯スポーツを楽しむ高齢者が参加する大会である一方で、年齢を感じさせないハイレベルなプレーが見られることも魅力の一つです。



▲ソフトバレーボール交流大会の様子

ソフトバレーボール交流大会に出場した仲地浩さんは、長年にわたりスポーツを実践するとともに、広く国民に感動や勇気を与え顕著な功績をあげたとして、平成30年度「日本スポーツグランプリ」という栄えある賞を受賞されました。

剣道交流大会に出場された岸本恵一さんは、70歳で(二財)全日本剣道連盟6段審査に合格しました。合格率は22.7%で、70歳以上の上合格者は全国でも7名のみという狭き門を突破しています。

また、ラージボール卓球交流大会出場の野原佳代子さんは、10年連続で全国ラージボール卓球大会に出場しており、ペタンク交流大会出場の大城武徳さん、城

間秀栄さん、知花惟行さんは、第22回J.P.B.F.カップ九州ブロックペタンク大会にて、沖縄県勢として初優勝を果たしています。大城さんは同大会で個人としてもシューティング部門優勝という快挙を成し遂げました。

このように、沖縄ねりんピックは、各競技において全国大会で活躍する選手が数多く参加しています。年齢を感じさせない躍動感溢れるプレーは、高齢者のみならず、全ての世代の人に感動を与えています。

沖縄ねりんピックを通じた次世代の育成

沖縄ねりんピックは、参加対象者を概ね60歳以上としており、高齢者が主役となるイベントですが、その運営のスタッフとして学生が参加している競技もあります。7月に開催されたシニアサッカー交流大会もその一つです。

シニアサッカー交流大会では、中学生や高校生が試合の審判員として運営に携わりました。

サッカーの審判員の資格

を取得するには、日本サッカー協会もしくは各都道府県サッカー協会が実施する試験に合格しなければなりません。

学生にとつては実践を通して学ぶことができ、経験豊富な先輩方からのアドバイスをもらえる貴重な機会となっております。沖縄ねりんピックサッカー交流大会の主管団体である沖縄県シニアサッカー連盟では、沖縄ねりんピックの場を通して、サッカーの審判員を目指す学生の育成にも取り組んでいます。



▲シニアサッカー交流大会決勝戦開始前の様子



第31回全国健康福祉祭とやま大会 ねりんピック富山2018 「夢つなぐ 長寿のかがやき 富山から」

「ねりんピック」(主催：厚生労働省・富山県・一般財団法人長寿社会開発センター)の愛称で親しまれている「全国健康福祉祭」が11月3日から6日にかけて富山県富山市を中心に、15市町村で開催されました。

大会史上最多となる27種目のスポーツ・文化交流大会や美術展等が行われ、全国から約一万人もの選手団が集まり、期間中の参加者は延べ約50万人(観客含む)と発表されました。



▲県選手団結団式の様子
【那覇空港2階ウエルカムホール】

沖縄県からは17種目114名の選手団が派遣されました。また、美術展には昨年度「第9回沖縄ねりん

ピックかりゆし美術展」における6部門の上位作品(12作品)も展示され、多くの方に鑑賞されました。

○総合開会式(3日)



▲入場行進の様子
【富山県総合運動公園陸上競技場】

大会初日に富山県総合運動公園陸上競技場で、行われた総合開会式の入場行進では、北海道を先頭に、北から順に入場しました。行進の終盤に登場した沖縄県選手団は剣道競技の上地長保選手が旗手を務め、選手・役員は蘭(デンファレ)の花束【JAおきなわ(県農林水産物販売促進協議会)より(空輸含む)無償提供された】を掲げて行進しました。マラソン競技の喜舎場梨枝選手が、「明るく元

気に」を合言葉にうちなーパワーで頑張ります」と来場者に沖縄県選手団を紹介し、選手一同元氣よく入場しました。

大会期間中は天候にも恵まれ、各地で交流の輪が広がりました。

○主な競技結果

【個人の部】

マラソン女子(70歳未満)
10km2位 喜舎場梨枝
5km6位 具志堅裕子
ダンススポーツ(個人戦)
ペア(ヘルンバ10位)
チャチャチャ12位

儀間剛・津波古ルミ子

【団体の部】

決勝8位 ソフトボール
予選1位 ゲートボール
決勝8位(優秀賞)

○美術展出品結果

【日本画部門】
厚生労働大臣賞
深見 汎(沖縄の闘牛)

【工芸部門】

最高齢者賞
当銘 春子(たからもの)

○次年度開催・和歌山県

第32回全国健康福祉祭和歌山大会(ねりんピック紀の国わかやま2019)は平成31年11月9日(土)12日(火)に開催予定。

～沖縄県共同募金会からの御案内～

特定の社会福祉法人への寄附をお考えの皆さまへ

社会福祉施設の建設、備品などの整備のための資金が必要な法人さまへ

「受配者指定寄附金制度」をご存知ですか

社会福祉法人など特定の受配者(寄附を受ける法人)を指定した寄附にも、「**一定の要件**」をみたせば、「**税制上の優遇措置**」を受けることができます。

「一定の要件」とは

- ① 受配者は、社会福祉事業または更生保護事業を行う法人であること（法人設立準備と同時進行で相談は受け付けます）
- ② 寄附金の使途は次のいずれかに該当すること
 - 土地購入費、借地料
 - 施設の新築・増築・改築・改修等工事費、土地造成等の土木工事費、設備・備品の整備費
 - 独立行政法人福祉医療機構又は金融機関からの借入金の償還※ 土地の現物寄附も対象となります（法人による寄附の場合のみ）
- ③ 緊急に資金が必要であること
寄附金の対象事業は、事業計画、資金計画が整っており、必要な契約が交わされていることが必要です。
また、資金計画のうえで、補助金や借入金等が予定されている場合は、それらの決定後、最終的な自己資金の必要額が確定してから受け付けることとなります。
- ④ 共同募金会の審査において認められたものであること
 - 沖縄県共同募金会又は中央共同募金会において、寄附者と受配者双方に係る身分関係・契約関係、当該事業に対する配分の必要性及び緊急性について審査いたします。
 - 審査のための必要書類については、沖縄県共同募金会までお問い合わせください。

「税制上の優遇措置」とは

- ① 個人の寄附の場合、所得税については所得控除又は税額控除、また個人住民税については税額控除の対象となります。（2千円を超える額）
- ② 企業など法人の寄附の場合、法人の課税対象となる所得から、その法人が支出した寄附金額の全額が、一般寄附金の損金算入限度額及び特別損金参入限度額の枠とは別に控除されます。
※ 営利企業だけでなく、医療法人や協同組合、収益事業を営んでいる公益法人、NPO法人、宗教法人なども指定寄附による法人税の優遇措置を受けることができます。

問合せ先：社会福祉法人 沖縄県共同募金会
TEL:098-882-4353 / FAX:098-882-4270
E-mail:akaihane@okishakyo.or.jp

**沖縄ガス(株)から
りゅうちゃん子ども
の希望募金**



▲【写真左から2番目】
沖縄ガス株式会社 代表取締役社長 我那覇 力蔵 様
【写真左から1番目】
同社 取締役総務部長 玉城 勉 様

7月27日に沖縄県総合福祉センターにて、沖縄ガス株式会社より、7月22日に創立60周年を迎えられた記念として、りゅうちゃん子ども希望募金へ20万円の御寄付をいただきました。
りゅうちゃん子どもの希望募金への寄付金については、児童養護施設の来春卒園予定の児童を始め、子ども食堂や子どもの居場所づくり活動に取り組んでいる民間団体などへ助成します。

**りゅうぎんユイマール
助成会から募金をいた
だきました!**



▲【写真左から2番目】株式会社琉球銀行 取締役頭取 川上 康 様
【写真左から1番目】同社 取締役総合企画部長 金城 均 様

11月6日に琉球銀行本社にて赤い羽根募金の贈呈式が行われました。琉球銀行が地域社会貢献活動として、平成5年に創立45周年を記念して設立した「りゅうぎんユイマール助成会」より、平成7年から毎年共同募金会へ御寄付をお寄せいただき、これまでの累計額は940万円に上ります。
いただいた寄付金については、地域の福祉活動や住民同士の支え合い活動へ助成することとしています。

**大阪北部地震災害義援金
を送金/西日本豪雨災害
義援金募集は継続中**

6月18日に発生した大阪北部を震源とする地震が発生し、被災者の方々を支援することを目的に、沖縄県共同募金会と各市町村共同募金委員会(社協)では6月22日から9月28日にかけて義援金募集の呼びかけを行いました。
県民の皆様からの心温まる御寄付121万6千円が寄せられ、この度大阪府共同募金会へ送金しました。
義援金については、大阪府が設置する義援金募集委員会において使途・配分が決定され、市町村を通じて被災者に支給される予定です。御協力ありがとうございました。

なお、7月に発生した西日本豪雨災害被災者支援の義援金は、2019年6月28日まで募集を継続しています。
送金先は、沖縄県共同募金会ホームページをご覧ください。

「りゅうちゃん子どもの希望募金」へご協力ください!

ふるさとサポート募金
<http://akaihane.or.jp/furusapo/>
寄付する→テーマ→沖縄県を選ぶと、りゅうちゃん募金へ寄付できます。



生活困窮などによって、地域の中で孤立しがちな子どもたちの健やかな育ち、学びを支え、安心した生活と未来を応援する民間団体の取組みを支援するため「りゅうちゃん子どもの希望募金」を実施しています。
寄付の方法として、インターネットを通じてクレジットカード等の決済で寄付できる「ふるさポ・子どもたちの居場所づくり」、または沖縄県共同募金会の銀行口座への「振込」があります。また琉球新

銀行名	支店名	種類	口座番号
琉球銀行	石嶺	普通	476739
沖縄銀行	石嶺	普通	1550468
沖縄海邦銀行	汀良	普通	0264480
沖縄県農業協同組合	首里	普通	0047634
コザ信用金庫	安里	普通	0019262

口座名義【各金融機関共通】
社会福祉法人沖縄県共同募金会 会長 湧川昌秀

報社の本社及び各支社でも受け付けています。なお、りゅうちゃん子どもの希望募金は個人・法人とも税制上の優遇措置の対象となります。(4ページの「税制優遇措置」とは「参照」)

新年のごあいさつ

社会福祉法人沖縄県社会福祉協議会
社会福祉法人沖縄県共同募金会

会長 湧川 昌秀



新年あけましておめでとうござ
います。

皆様におかれましては、輝かし
い新春を健やかに迎えのことと、
心からお慶び申し上げます。

さて、今日の社会福祉をめぐつ
ては、子どもの貧困をはじめ、生
活困窮、虐待、社会的孤立等の複雑・
多様化する福祉・生活課題が深刻
化しております。

このような中、国においては、「子
ども・高齢者・障害者など全ての
人々が地域、暮らし、生きがいを
共に創り、高め合うことができる
『地域共生社会』の実現」を掲げ、
包括的支援体制の構築を目指して
おります。県におきましても、「沖
縄県21世紀ビジョン基本計画」を
基に、「心豊かで、安全・安心に暮
らせる島」を目指して各施策を展
開しております。

しかしながら、社会福祉の充実
のためには、制度・施策のみならず、

住民の主体的な活動の推進や地域
での支え合い体制の構築が必要で
あり、行政や福祉関係者、ボラン
ティア、住民等が協働し、課題解
決に向けて取り組むことが求めら
れております。

一方で昨年は、西日本を中心と
した豪雨や北海道胆振東部地震等、
全国各地で多発した災害によって
多くの住民の生活が脅かされまし
た。今なお、被災地においては、復
興に向けた支援が継続されており
ますが、災害への備えとして、日
頃からの地域のつながりが重要で
あることが再認識されております。

これらの動向を踏まえながら、
沖縄県社協では、関係団体との連
携の下、社会的孤立の解消・防止
や生活課題を抱えている方々への
包括的な支援を目的とする「TH
ANKS(サンクス)運動」をほじ
め、「沖縄県社協第4次地域福祉活
動総合計画」の着実な実施により、
本県の社会福祉活動の推進に邁進
する所存でございます。

年の初めにあたり、県民の皆様
にとって新しい年が幸多き年にな
ることを祈念申し上げますととも
に、地域福祉を推進するうえで貴
重な財源であります「赤い羽根共同
募金をはじめ、社会福祉に対する
尚一層の御理解と御協力をお願い
申し上げます。新年のごあいさつとい
たします。

平成31年元旦

平成30年度

全国200万人
加入!!

日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償!!

ボランティア活動保険

保険金額

保険金の種類		プラン	Aプラン	Bプラン	
ケガの補償	死亡保険金		1,040万円	1,400万円	
	後遺障害保険金		1,040万円 (限度額)	1,400万円 (限度額)	
	入院保険金日額		6,500円	10,000円	
	手術 保険金	入院中の手術		65,000円	100,000円
		外来の手術		32,500円	50,000円
	通院保険金日額		4,000円	6,000円	
	特定感染症の補償	上記後遺障害、入院、通院の 各補償金額(保険金額)に同じ			
賠償責任の補償	葬祭費用保険金 (特定感染症)		300万円(限度額)		
	賠償責任保険金 (対人・対物共通)		5億円(限度額)		

年間保険料(1名あたり)

タイプ	プラン	Aプラン	Bプラン
基本タイプ		350円	510円
天災タイプ(※) <small>(基本タイプ+地震・噴火・津波)</small>		500円	710円

<http://www.fukushihoken.co.jp>

ふくしの保険

検索

(※)天災タイプでは、天災(地震、噴火ま
たは津波)に起因する被保険者自身
のケガを補償しますが(天災危険担保
特約条項)、賠償責任の補償につい
ては、天災に起因する場合は対象に
なりません。

保険金をお支払いする主な例



ボランティア行事用保険

(傷害保険、国内旅行傷害保険特約付傷害保険、賠償責任保険)

送迎サービス補償

(傷害保険)

福祉サービス総合補償

(傷害保険、賠償責任保険、約定履行費用保険(オプション))

● このご案内は概要を説明したものです。お申込み、詳しい内容のお問い合わせは、あなたの地域の社会福祉協議会へ ●

団体契約者 社会福祉法人 全国社会福祉協議会

〈引受幹事
保険会社〉 損害保険ジャパン日本興亜株式会社 医療・福祉開発部 第二課
TEL:03(3349)5137
受付時間:平日の9:00~17:00(土・日・祝日、12/31~1/3を除きます。)

取扱代理店 株式会社 福祉保険サービス

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
TEL:03(3581)4667 FAX:03(3581)4763
営業時間:平日の9:30~17:30(12/29~1/3を除きます。)
この保険は、全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約です。

(SJK17-16970 2018.1.9作成)



沖縄県社会福祉大会

地域の、人々が、A 明るい、N ネットワークを、K 築き、S 支え合う社会を目指して

10月25日、沖縄コンベンションセンターにて「第61回沖縄県社会福祉大会」(主催・県、県社協、県共募)が開催され、福祉関係者約1500人が参加しました。

【式典】

大会式典では、長年にわたり県内の社会福祉の発展に貢献された方々への表彰が行われました。県知事表彰・感謝、大会長表彰・感謝、九社連会長表彰の伝達表彰、サンクス運動ロゴマークの表彰など、総勢192

大会宣言

今日の社会福祉をめぐるのは、急速に進む少子高齢化や地域のつながりの希薄化等を背景に、生活困窮世帯の増加や社会的孤立などの複合的な福祉・生活課題が顕在化・深刻化する中、公的な支援制度だけでは対応が困難な状況も生じており、改めて地域での支え合い体制の構築が求められています。

また、甚大な被害をもたらした西日本豪雨災害や北海道胆振東部地震などの自然災害時に、被災地において、復旧・復興の支援に懸命に取り組む住民やボランティアの方々の姿を目の当たりにし、私たちは地域の絆や助け合い活動の大切さを再認識しました。

こうした中、国及び地方公共団体においては、地域の課題を地域住民が「我が事」として受け止め、人と人、人と資源が分野を超えて「丸ごと」でつながり、地域をともに創っていく「地域共生社会」の実現に向けた取り組みが推進されています。

本県においても、昨年11月には、社会的孤立の解消・防止や生活課題を抱えている方々への包括的な支援を目的とする、サンクス運動がスタートしました。本運動を推進していくためには、福祉関係団体、ボランティア、NPO、企業、行政等が互いに連携を図るとともに、積極的に協働していくことが不可欠です。

本日、「地域の人が明るいネットワークを築き、支え合う社会を目指して」のスローガンのもと、助け合いの精神を大切にしながら、沖縄らしい優しい社会づくりに取り組む決意を新たにしました。

私たちは総力を結集し、県民一人ひとりがともに支え合い、誰もが安心して生活できる、住みよい地域社会の実現に向け行動することを誓い、ここに宣言します。

平成30年10月25日

第61回沖縄県社会福祉大会

人・2夫妻・97団体に表彰状・感謝状が授与されました。



▲砂川美枝子氏による被表彰者代表挨拶

被表彰者を代表して県知事表彰(民生員児童委員功労)受賞の宮古島市民児協砂川美枝子氏から謝辞が述べられました。また、県議会議長(狩俣信子文教厚生委員長代読)からの祝辞のあと、大会宣言が満場一致で採択されました。

【記念講演】

後半には、「人生100年時代とごちゃまぜ社会」と題して、社会福祉法人佛子園理事長の雄谷良成氏による講演が行われました。

雄谷氏からは、氏が運営する法人での「ごちゃまぜ」の取り組み(※)が紹介されました。また、「子どもから高齢者、障害のある方もない方も、全ての人が活躍できる社会づくりの推進が、社会的排除のない社会づくりにつながる」と話がありました。

参加者は、時に笑顔を見せ、終始傾きながら講演を聞いており、それぞれの地域づくりへ活かせるヒントを得ている様子でした。

※障害児入所施設、障害者の就労支援、サービス付き高齢者住宅、デイサービス、学生住宅等を同じ敷地に運営し、ともに支え合い、暮らしをまっすぐ行っている。



▲雄谷良成氏による記念講演

報告

社会福祉活動資金づくり協力

第21回 芸能チャリティ公演

人が繋ぐ福祉の輪・ウチナーンチュの肝ぐくる

社会福祉活動資金造成を目的に「第21回芸能チャリティ公演」人が繋ぐ福祉の輪・ウチナーンチュの肝ぐくる(主催:第21回芸能チャリティ公演実行委員会・県社協)が11月25日に西原町町民交流センターさわふじ未来ホールにて開催されました。

今回の公演では、22団体・約300人がボランティアで出演し、琉舞や日舞、八重山舞踊、民謡、器楽、フラダンス、民踊など多彩な演目で来場者を楽しませました。また、協賛広告において



▲那覇地区民踊団体連絡協議会 西原支部 (芸能チャリティ公演の様子)

は37企業・団体から御協力いただきました。本公演の収益金は、全額社会福祉活動資金として役立てられます。

御詫び

『第21回芸能チャリティ公演』に関しまして、公演当日、会場へ御来場されたにも関わらず、満席により御入場いただけなかった方が多数いらっしゃいました。

本公演を楽しみに御来場して下さった御客様をはじめ関係者の皆様には、大変ご迷惑おかけいたしましたことを深くお詫び申し上げます。

社会的孤立対策モデル事業

今帰仁村社協の
取り組み

●なぎじん結ネットワーク
事業

今帰仁村社協（田港朝茂会長・以下「村社協」という）は、県社協からの3年間の指定事業「社会的孤立対策モデル事業」の後継事業として、平成30年度から「なぎじん結ネットワーク事業（社会的孤立対策事業）」を展開しています。

村内19字を4つの区域に分けて、各区域に1名ずつ（計4名）の地域福祉コーディネーターを配置し、住民の相談・支援活動を行っています。月に1回公民館に地域相談窓口を開設し、区長や民生委員、社協職員が相談に応じる「シマのなんでも相談会」を村内全19字で行っています。平成25年度と27年度には、「今帰仁村民福祉問題へのアンケート」を実施し、地域の福祉課題を話し合う地域福祉懇談会にて課題を共有しています。

●なぎじん結ネットワーク
連絡会

「なぎじん結ネットワーク事業」の一環として、今年10月19日に「なぎじん結ネットワーク連絡会」が開催され、地域住民をはじめ今帰仁村役場福祉保健課職員や今帰仁郵便局、本部警察署、本部・今帰仁村消防組合など60名が参加しました。

連絡会では、地域活動を行っているボランティアやサークル活動者から「なぎじん見守り隊」の活動報告があり、その効果として「見守り対象者から声をかけてくれるようになった」「独



▲連絡会の様子

居であった方のお宅に、家族が来るようになった」などの報告がありました。

また、グループワークでは、各字での「見守り隊の設置」に向けて様々な意見交換がなされ、参加者からは「今日の課題や情報を持ち帰って活動していきたい」「参考になることが多い」「地域に持ち帰って活かしていきたい」との声がありました。

社会的孤立対策モデル事業

西原町社協の
取り組み

●パソコン講習会

西原町社協（大城幸哉会長・以下「町社協」という）主催のパソコン講習会が、糸数技研の糸数清代表を講師に招き、西原町社会福祉センターで10月24日に行われました。

この講習会は、「社会的孤立対策モデル事業」の一環として自治会長や地域窓口相談員を対象に、事業報告会に向けたパソコンの技術習得を目的に開催されたものです。



▲パソコン講習会の様子

受講者は、まず、パワーポイントの操作方法や効果的なプレゼンテーション方法などを学び、後半では1年間の活動を報告する事業実績報告会にむけた資料作成に取り組みました。講習会に参加した関係者からは「基礎から学べてよかった」「新しい機能や効果的なプレゼンテーション方法を知ることができた」との感想がありました。

事業実践報告会は、地域住民や関係者を対象に今年3月に開催される予定です。

こちらのホームページでは、地域の先駆的な取り組み事例などを紹介しています。

T = ちいきの H = ひとびとが A = あかるい

N = ネットワークを K = きずき S = ささえあうしゃかい

<https://www.okishakyo.or.jp/koritzero/>

THANKS 運動

検索



アクティブシニアの ボランティア学習ツアー

「住民主体の支え合い活動・住民相互の取組み」を推進

県社協のボランティア・市民活動支援センターでは、地域で活躍する新たな担い手の養成と、住民主体の支え合い活動・住民相互の取組みの推進を目的に、かりゆし長寿高等学校の学生37名を対象に、9月14日と10月1日、26日の計3回、「アクティブシニアのボランティア学習ツアー」（以下「学習ツアー」という）を実施しました。

学習ツアーでは、まずツアーの目的や「ボランティアとは」というテーマについてツアー参加者と共有しました。その後、ボランティアが活動している現場において、市町村社協職員やボランティア団体の代表者からの説明等がありました。参加者は、地域の実情や課題、それぞれの活動についての理解を深めるとともに、団体との交流を通して、自分たちにもできるボランティア活動について考えることができました。

八重瀬町のミニデイサービス「具志頭」では、自治会を中心に社協職員と地域住民とが協力しながら、地域の高齢者を支えている様子を垣間見ることができました。また、「糸満市のボランティア応援センターふらっと」では、地域に開かれた拠点として、地域の方やボランティアが気軽に立ち寄れる「居場所」として、独自の取り組みが紹介されました。



▲ミニデイ「具志頭」で昼食を囲んでの交流

現在、子ども食堂や学習支援等、各地域において「子どもの居場所づくり」が展

開されていますが、那覇市にある「すこやか宇栄原つ子」、沖縄市にある「夢空間たんぽぽ」では、子どもたちが安心して過ごせる空間が整えられており、地域のボランティアに支えられながら、のびのびと活動している様子を見ることができました。



▲夢空間「たんぽぽ」で熱心に話を耳を傾ける参加者

参加者からは、「自分のできそうな活動をみつけたので、早速市町村社協を訪ねてみたい」、「相互扶助（ゆいまーる）文化をなお一層高めて、最大限ボランティア活動に参加し、地域の方々との交流に活かしていきたい」との意見があり、活動に参加した学生2名が市町村社協ボランティアセンターへボランティア登録する場面も見られました。

福祉サービス運営適正化委員会 事業説明会・分野別事例検討会

那覇・南部地区

10月1日、2日の両日、県総合福祉センターにおいて、沖縄県福祉サービス運営適正化委員会（以下「沖縄運適」という）事業説明会・分野別事例検討会（那覇・南部地区）が開催されました。

講義では、沖縄適委員長竹藤登氏より「苦情対応に求められる知識と技術」と題して、苦情解決の目的や、苦情にならないための対応方法、苦情になった際の対応方法について講話がありました。また、分野別事例検討会では、要因分析の重要性について解説がありました。

事例検討会では、1日目に保育・児童分野、2日目に高齢・障害児者分野と、分野に分かれて事例検討を行ったことにより、具体的な解決策の検討を行う機会となりました。参加者からは、「グループワークで意見を出し合うことによって改めて色々な解決策に気付

くことができた」「怒りを受け止める、汲み取ることが何よりも優先すべき点である」「苦情解決の手順が分かった、取り組み方、考え方が参考になった」等の声が寄せられました。

本説明会・分野別事例検討会では、沖縄適の役割と事業内容を周知するとともに、事例検討を通して苦情対応に求められる知識・技術を学び、苦情対応力の向上を図りました。沖縄適では適切な苦情対応に向けた支援に努めます。



▲事例検討の様子

地域福祉(活動)計画推進研究協議会を開催

県社協では沖縄県と共催で、市町村行政及び社協職員を対象に、10月15日、「市町村地域福祉(活動)計画推進研究協議会」を開催しました。

本研究協議会は、地域共生社会の実現に向けた改正社会福祉法の主旨を踏まえ、新たに計画に盛り込むべき事項のポイントや留意点を学ぶとともに、計画の策定意義や取り組み課題等を共有することを目的に開催されました。

午前中は、県社協の新崎地域福祉部長から「県内の地域福祉(活動)計画策定の現状と取り組み課題」について説明を行い、続く講義では、かみざと社会福祉研究所主宰の神里博武氏から「住民参加による地域福祉(活動)計画策定に期待すること」と題し、県内各地の計画策定委員に携わる立場から、改めて計画を策定する意義について講話がなされました。

午後からは、実際に計画

策定・見直しを行った八重瀬町社協主事の新垣美鈴氏から「計画策定におけるニーズ把握の取り組み」、糸満市社協次長兼在宅福祉サービス係長の島袋雄文氏からは「計画の進捗管理・評価方法」について発表があり、講師の菱沼幹男氏(日本社会事業大学准教授)からは、両市町の取り組みについて助言をいただき学びを深めました。

続く講義では、講師の菱沼氏より「地域福祉(活動)計画策定の留意点」について、新たに盛り込むべき事項を中心に、具体的な事例を踏まえた解説がありました。

最後に各市町村での取り組み課題について、グループごとに意見交換を行い、講師の神里氏、菱沼氏より今後の取り組みに向けた助言をいただき、研究協議会を締めくくりました。

参加者からは「16項目すべてに関する地域の実態を把握することが大事だと感

じた」「住民ニーズの拾い上げについて丁寧に一からスタートして活動につなげていきたい」等の声が寄せられるなど、計画策定・見直しに向けて、行政と社協が連携する意義や取り組み課題などを共有する機会となりました。



▲講義を行う日本社会事業大学准教授 菱沼氏



沖縄県地域包括・在宅介護支援センター協議会 第2回研修会開催

沖縄県地域包括・在宅介護支援センター協議会では、10月9日に県総合福祉センターにおいて、地域包括・在宅介護支援センターに配置される各専門職の役割や、連携して支援するための手法の習得を目的に研修会を開催しました。

講師の和田忍氏(足立区社会福祉協議会・包括支援課長)による「包括的な支援に向けた包括・在介センター内連携の意味とポイント」包括的な支援と連携を支える基盤づくりについて」と題し講義・事例検討が行われました。

講義の中で和田氏からは「相談者の背景には様々な問題があり、専門分野ごとに切り分けてできるものではない。情報共有を通して、各専門職が共通の目標をもち連携することが必要」との指摘がありました。

後半の事例検討では、専門職ごとにグループを分け、事例のアセスメントから支援計画策定までの演習を行

いました。専門職ごとに分かれて検討することで、それぞれの視点の違いや気づきがあり、各専門職の役割や、チームケアの大切さについて学ぶ機会となりました。

受講者からは、「内部連携の重要性について学ぶことができた」、「他の職種のことを聴くことで、新たな視点でみることができた。多職種で話し合う意義を理解できた」、「センター内で連携ができる」と支援の視点が広がる」などの声がありました。



▲グループワークの様子

沖縄県老人福祉施設職員

研究大会を開催

沖縄県老人福祉施設協議会(以下「県老協」という)では、去る11月10日、県総合福祉センターにおいて、「沖縄県老人福祉施設職員研究大会」を開催しました。

本大会は県内の老人福祉施設・事業所の役職員が一堂に会し、現場で日頃取り組んでいる研究成果を発表・共有することで職員の資質向上を図ることを目的に毎年開催しています。

今年度は『高齢者施設に求められるものとは〜地域利用者、そして職員に〜』をテーマに掲げ、410名が参加しました。



▲基調講演の様子

開会の挨拶では、県老協協金会長から「沖縄県の研究のレベルが年々上がっている。全国・九州の職員大会での実践研究発表において、県内施設が優秀賞等を受賞することが増えた。

各施設の取り組みを共有し、県全体の高齢者支援の資質向上に繋がるよう期待したい」との激励の言葉がありました。

続いて、宮崎県の社会福祉法人スマイリング・パーク理事長の山田一久氏により「これからの高齢者施設に求められるもの」と題し、介護現場における最新のICTを活用した支援や同法人が取り組んでいる職員の定着率を上げるための工夫考え方について基調講演がありました。山田氏からは、「自分がどう思われるかではなく、他者のために動かなければならない」との話がありました。

分科会では7つのテーマに分かれ、各施設で抱える課題を共有し、多職種間の



▲分科会の様子

社会福祉法人次世代経営塾が開講

去る11月7日県総合福祉センターにおいて、沖縄県社会福祉法人経営者協議会主催のもと社会福祉法人次世代経営塾が開催され、51名が受講しました。

本研修は、これからの社会福祉法人の経営に必要な知識と技術を学び、次代を担う経営者及び管理者の育成を図ることを目的に連続講座として実施するものです。

初回講座では、宮城県仙台市にある社会福祉法人青葉福祉会理事長であり、宮城県経営協会会長も務める庄子清典氏より「社会福祉法人の存在意義と役割」社会

連携や各施設の強みをどのように地域で活用していくか等、事例研究を通して研究討議が行われました。

参加者からは「各施設の取り組みを知ることで、知識の習得、モチベーションアップに繋がった」「地域支援を行ううえで、職員一人ひとりの立場や役割を確

福祉法人に冬が来た」と題した講義が行われました。

庄子氏から社会福祉法人が非課税であることを踏まえ、公益性と非営利性をどのように発揮し、社会にみせていくのか、何のために経営を学び、経営を強化していくのか等、示唆に富んだお話がありました。

その後、ウェルフェア・J・ユナイテッド(株)専務取締役の鈴木真一氏より「これからの社会福祉法人の管理職に必要なマインド」と題し、経営者を支える立場である管理職に必要な要件などについて講義と演習が行われました。

認していくことの大切さを実感した」等の声が寄せられ、実り多い大会となりました。

本大会の成果を踏まえ、県老協では、今後も県内の各施設・事業所におけるサービス向上に向け、取り組みの強化を図ります。

受講者からは「これからの経営について、社会福祉法人の特徴を踏まえた具体的に実践的な内容で勉強になった」などの感想が寄せられています。

次回以降のテーマは、「社会保障制度改革の方向性の理解」と「社会福祉法人が行うべきマーケティング」、「事業継続と人材確保の取り組み」となっており、講義と演習をもとに参加法人の経営力の強化を図ります。



▲庄子理事長

日常生活自立支援事業

生活支援員研修会

日常生活自立支援事業では、認知症高齢者や知的・精神障害者等判断能力が不十分な方が、地域で自立した生活が送れるよう支援しています。

本事業の実施には、福祉サービスの利用手続きや公共料金の支払い等を通して見守り支援を担う「生活支援員」の存在が欠かせません。（平成30年10月末、149人が登録）

県社協・福祉サービス利用支援センターでは、生活支援員の知識・技術の習得を図ることを目的に、「生活支援員研修会」を9月20日沖縄県総合福祉センターにて開催し、80名が受講しました。

本研修会では、特に精神障害者に対する対人援助に焦点をあて、医療法人宇富屋玉木病院相談課課長の川平哲郎氏より「精神障がい



理解とポイント」と題し、こころの症状（からだ・心

理面・生活や行動）病気（アルコール依存症・うつ病・睡眠障害・統合失調症・認知症等）について、講話がなされました。

また、グループワークでは、事例を通して参加者同士で意見交換を行い、利用者の理解・支援のあり方等について学びました。

参加した生活支援員からは、「理解者がいることで生きやすい社会になることがわかった。一人でも多くの人に知ってもらいたい」「他市町村の支援員と交流し、支援での悩みや嬉しかったことを共有することができた」等、多くの感想が寄せられました。

県社協としては、今後も生活支援員の資質向上が図られるよう研修会を開催する等、地域で活躍できる生活支援員の養成・確保に取り組んでいきます。



地域生活定着支援事業研修会

意思決定支援を踏まえた

「居場所」と「役割」の創出

県社協・地域生活定着支援センター（以下、「本センター」という）では、意思決定支援の本質を理解し、実践現場で活かせる意思決定支援のあり方を考えることを目的に11月20日、豊見城市社会福祉センターにて、「罪を犯した高齢・障害者の地域生活移行支援セミナー」を開催しました。

セミナーには、福祉・医療・行政・司法関係団体等、70名が参加しました。

はじめに、本センターより、これまでの支援実績や実際の支援の流れを紹介し、個別支援や関係機関との連携上の課題等の報告を行いました。

次に、沖縄大学准教授島村聡氏から、「意思決定支援の理念と支援の実際」と題して、意思決定支援の基本理念やそのプロセス、実際の支援方法等について、講演がありました。

続いて、本センターから、高齢・障害分野の支援事例の報告を行った後、意思決定支援の考え方を踏まえ、支援上の課題への対応方法等について、活発なグループ討議が行われました。島村氏からは、「本人の意思の出口に向けた支援を計画するのではなく、『なぜ、そのように希望したのか』という本人の意思の入口に着目した支援方法を考えなければならぬ」等の助言がありました。

参加者からは、「本人の意思を受け止めなければ、（支援者の考え方の）押しつけになる」等の感想が寄せられました。

本センターとしては、罪を犯した高齢・障害者本人の意思決定に基づいた生活の維持・継続ができるよう、各関係機関と連携・協働しながら、支援体制の構築に取り組みしていきます。

沖繩県かりゆし長寿大学校 大運動会を開催

第27回沖繩県かりゆし長寿大学校大運動会が、10月20日、沖繩県総合運動公園（レクリエーションドーム）において行われました。第28期生190名は、明るく笑顔で元気よくさまざまな競技に全力を尽くしました。



プログラムは、十一種目あり、最初のラジオ体操で体をほぐし、全員参加の「スプリンレース」では、バトミントンのラケットでテニスボールを丁寧に運び、「ドッチビー競争」では、

70cmの輪をめぐらせてデスクを投げるゲームを行いました。また、バスケットドリブル・パン食い競争・風船割り・バーキレース・二人三脚を組み合わせた「五種競技」を行い、順位を競いました。そして、全員参加の「ほほ寄せて」では、男女ペアが息を合わせて折り返し地点をまわって盛り上がりを見せました。「親子三代リレー」では、小さな子供たちもリレーに参加し、家族のチームワークを發揮していました。



また、応援合戦も行われ、より一層盛り上がりを見せました。昼食時には、家族揃ってお弁当に舌鼓をうつ和やかな風景もみられました。

午後は、「フォークダンス」から始まり、懐かしい青い山脈の曲に誘われて、男女ペアでリズムカルに楽しく踊り、学生からアンコールの声も上がりました。また、「孫と玉入れ」では、孫達と一緒に競技を楽しみました。次の「男女混成ペアリレー」では、各学科から選ばれた学生が持ち前の脚力を發揮し、最大の盛り上がりを見せました。最終種目の「曜日対抗大玉運び」では、学生が力を合わせ団結力を發揮しました。

今年も家族の来場が多く、応援に来たお孫さんからは、運動会で活躍する祖父母をみて「カッコいい!」「おじいちゃん、がんばれ!」「おばあちゃん、すごい!」等大きな声援が送られました。学生全員がチームワークを結集し、楽しく元気よく活躍した運動会でした。

結果 優勝(火曜)地域文化学科、準優勝(木曜)健康福祉学科、三位(火曜)健康福祉学科でした。

平成31年度(第29期)沖繩県かりゆし長寿大学校 学生募集

生活基盤の確立と、健康の保持・増進に役立てるとともに、地域活動の担い手を養成することを目的に、平成31年度(第29期)かりゆし長寿大学校の学生を募集します。

受講期間
平成31年4月から平成32年2月までの(約一年間)

募集人員
左表のとおり
(※各学科の募集人員64名中10名は市町村社協からの地域推薦枠とする) 原則として週1回(火曜日または木曜日)午前10時から午後3時まで。

学 科	募集人員		合計
	火曜日 コース	木曜日 コース	
地域文化学科	32名	32名	64名
健康福祉学科	32名	32名	64名
生活環境学科	32名	32名	64名
合 計	96名	96名	192名

応募資格
①県内に居住し、平成31年4月1日以前に満60歳に達している者
②健康で地域活動を行う意欲があり、全期間通じて受講できる者
③本校卒業生は除く

募集期間
平成31年2月4日(月)から平成31年2月28日(木)(受付)午前9時~午後4時(土日祝祭日、2月26日【卒業式】を除く)

受講料
年間1万5000円

※事務手続き等に係る諸経費、学習に係る教材費、その他課外活動等に係る諸経費については、別途自己負担となります。(30年度クラブ活動費負担額1万7000円~3万円)

お問合せ先
沖繩県社会福祉協議会
いきいき長寿センター
098(887)1344



▲講義風景
『地域文化学科「読み聞かせ」』

福祉施設等で活躍するみなさんが
キャリアデザイン(こんな職員を目指したい!)を描く研修会

開催報告

チームリーダーキャリアアップ研修会

～福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程～ を開催しました!

講師に田島誠一氏(合同会社TKT福祉経営研究所代表/本研修課程テキスト編集委員会委員長)をお招きし、52名が受講しました。受講者は、本研修課程のプログラム構成等(図1参照)に基づき、事前学習及びプロフィールシートを作成の上、研修会を受講し、受講後には自身のキャリアデザインシート(推奨課題)の作成に取り組みました。

研修会の内容等

沖縄県社協・福祉人材研修センターでは、県内の福祉施設等で働く職員が自らのキャリアアップの道筋(キャリアデザイン)を描くことを支援すべく、「チームリーダーキャリアアップ研修会」を開催しました。同研修会は、全国社会福祉協議会・中央福祉学院が開発した「福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程」(以下・本研修課程)の1コースで、他には初任職員・中堅職員・管理職員・上級管理職員の計5コースの研修課程があります。



▲講師:田島 誠一氏

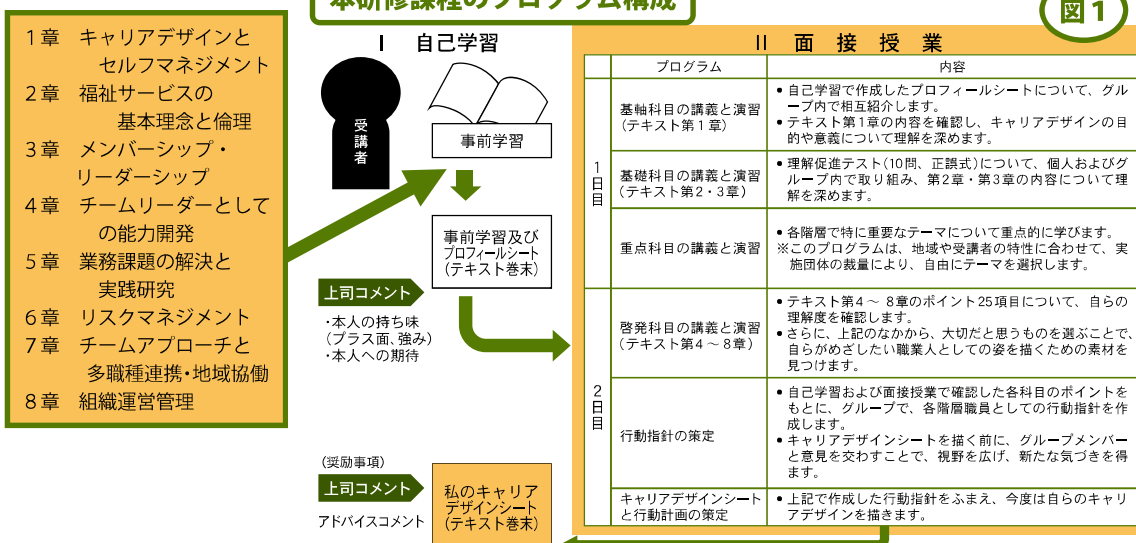
更なる人材育成の推進支援に向けて

沖縄県社協・福祉人材研修センターでは、平成31年度から本研修課程の上級管理職員コースを除く4コースの研修会を開催する予定です。それに先駆け、来る2月6日には県内の福祉施設の管理者等を対象に「福祉施設・事業所の人材育成推進セミナー」を開催し、人材

受講者アンケートからは「キャリアデザインシート」の作成は、まさに「学び」から行動レベルへと「変わる」ために重要な取り組みだと感じた」「グループワークでは、自分自身を見つめなおし、目標を持って変わっていくことの大切さを学んだ」といった声が寄せられました。

本研修課程のプログラム構成

図1



育成の基本的視点等についての講義や「沖縄県の福祉・介護分野における人材育成ガイドライン」の目的・内容等を紹介いたします。

各福祉施設等におきましては、本研修課程の研修会等を更なる人材育成の推進に活かす機会として、是非ご活用ください。

自己学習&面接授業(研修会)で

学ぶ

- ・自身の経験
- ・新しい知識、情報
- ・新しい経験

気づく

- ・強み(強化点)
- ・弱み(改善点)

キャリアデザインシートで

描く

- ・目標
- ・行動指針

変わる

- ・行動変容
- ・実践

キャリアパスの段階(各階層)ごとに

【詳しい内容やお問合せ】★沖縄県社会福祉協議会 福祉人材研修センター★TEL:098-882-5703 FAX:098-887-1071



第12回「介護の日」講演会

「介護をしている人が『助けて』と
 言える社会を目指して」

「大切なだれかをケアするあなたもたいせつなひとりです」



沖縄県社協・介護・実習普及センターでは「介護の日」（11月11日）にちなみ、西原町さわふじ未来ホールにて、介護者支援の第一人者である日本女子大学教授の堀越栄子氏による講演会を11月9日に開催しました。

堀越氏は介護者（ケアラー）の7割以上が家族であるとし「ヤングケアラー」・「ダブルケアラー」・「介護離職」について触れました。



▲講師の堀越栄子氏

また堀越氏は、「介護者の2人に1人は身体の不調、4人に1人強はこころの不調を抱えている。協力者がいない、信頼して相談できない先がない人が多く、5人に1人は孤立を感じている。介護者を孤立させない、追い詰めない仕組みや制度をつくることも大切である」と同時に、「介護者を地域全体で支えること、介護者があたりまえの社会生活を営めるように社会全体で早急に取り組むべきである」と話しました。

●ヤングケアラー
 10代で大人が担うような責任を引き受け、家事や家族の世話、介護、感情面などのサポートを行っている18歳未満の子ども。ケアが必要な人は、主に、障がいや病気のいる親や高齢の祖父母だが、兄弟や他の親戚の場合もある。

●ダブルケアラー
 育児と介護の同時進行状態を表すことば。家族や親族等、親密な関係における複数のケアやその中で複合的な介護をかかえ、複合的な負担と責任を伴う状態。

●介護離職
 家族や身近な方の介護をするために仕事を辞めること。管理職や熟練を要する職務に従事している40～50代の働き盛りの労働者が仕事と介護の両立が困難となり退職に至るケースが多い。



来場者の声

「二人で頑張らずに、助けを求めて自分の人生も大切にしたい」と笑顔で介護したい」「自分がヤングケアラーだったことを初めて知った。祖母と二人暮らしで介護をしていた。これからは実親の介護を求められ不安だ」「以前、親の介護をしていたとき、仕事と介護の両立が難しく兄弟や親戚に相談したが『あなたは看護師だろう』と言われ、親戚からは『看護師のくせに親を捨てるのか』と電話もあり、追い込まれていたことを思い出した」等の声が来



▲講演会のようす

場者から寄せられました。ケアラーに対するケアの重要性について再確認するとともに、改めて、ケアラーへの支援についてできることは何かを考える機会となりました。



厚生労働省による「家族介護支援マニュアル」がインターネットからダウンロードする事ができます。

<https://www.mhlw.go.jp/content/12300000/000307003.pdf>

沖縄県介護実習・普及センター
 TEL: 098(882)1484
 FAX: 098(882)1486



介護支援専門員
 実務研修受講試験
 結果報告

10月に行われた介護支援専門員実務研修受講試験の合格発表が、12月4日に全国一斉に公開されました。沖縄県の結果は次のとおりです。

- 受験者数 702名
- 合格者数 53名
- 合格率 7.5%
- ★全国合格率 10.1%



本試験合格者は、この後開催される介護支援専門員実務研修を受講することになります。

実務研修に関するお問合せは、研修実施主体である一般社団法人沖縄県介護支援専門員協会まで。

★実務研修に関するお問合せ
 【(一社) 沖縄県介護支援専門員協会】

☎098-887-4833

★試験に関するお問合せ

【沖縄県福祉人材研修センター】

☎098-882-5703

社会福祉ライブラリーから

本の紹介



『はじめよう! ボランティア』シリーズ(全4巻)



著者: 長沼 豊
出版社: 廣済堂あかつき

ボランティアとは、身近な人や社会のために、自分の出来ること、得意なことを生かして活動することです。本シリーズでは、身近なまちのことから、復興支援、国際交流など、社会へと視野を広げるきっかけとなる事例を多数紹介しています。様々な年代の人たちが活動する姿から、小さなことでも自ら動くことで、社会をよりよい方向へと変えていけるボランティアに興味を持つことでしよう。

“キャリア教育” や、社会の中で課題を見つけ出し、行動する “シチズンシップ教育” への「はじめの一步」となる一冊です。

※本会の寄付については
税制上の優遇措置が受け
られます。詳しくは県社
協総務企画部まで

- 国和会 様
- SEEDS OKINAWA 様
- 中地 昌願 様
- 沖縄生麺協同組合 様
- 沖縄ガスリビング株式会社 様
- 工業業協会青年部会 様
- 一般社団法人沖縄県電気管
- 有限会社ビニハン商会 様
- JTB協定旅館ホテル
- 連盟沖縄支部連合会・
- JTBレキオス会 様

誠によりがとうございまし
た。御寄付・御寄贈いただき、

寄付・寄贈者芳名
(10月1日~11月30日)



▲有限会社ビニハン商会様(10.16)
【写真左から2番目】
有限会社ビニハン商会 代表取締役会長 仲栄真 盛英 様
【写真左から1番目】 同社 代表取締役社長 仲栄真 盛智 様
【写真右から2番目】 本会 会長 湧川 昌秀 様
【写真右から1番目】 本会 常務理事 嘉陽 孝治 様



▲JTB協定旅館ホテル連盟沖縄支部連合会・JTBレキオス会様(10.18)
【写真右】
JTB協定旅館ホテル連盟沖縄支部連合会 副会長 比嘉 達己 様
【写真左】
本会 事務局長 高良 正樹 様



▲一般社団法人沖縄県電気管工業業協会青年部会様(10.23)
【写真左から3番目】
沖縄県電気管工業業協会青年部会 部会長 當銘 直彦 様
【写真左から2番目】 同会 副部会長 新垣 昌彦 様
【写真左から1番目】 同会 副部会長 仲間 幹 様
【写真右から2番目】 本会 会長 湧川 昌秀 様
【写真右から1番目】 本会 常務理事 嘉陽 孝治 様



▲沖縄ガスリビング株式会社様(10.30)
【写真左から2番目】
沖縄ガスリビング株式会社 代表取締役社長 島 紀彦 様
【写真左から1番目】 同社 常務取締役 諸喜田 浩 様
【写真右から2番目】 本会 会長 湧川 昌秀 様
【写真右から1番目】 本会 常務理事 嘉陽 孝治 様



▲SEEDS OKINAWA様(11.19)
【写真左から2番目】 SEEDS OKINAWA 下地 紗央 様
【写真左から1番目】 同団体 新垣 愛史 様
【写真右から2番目】 本会 常務理事 嘉陽 孝治 様
【写真右から1番目】 本会 事務局長 高良 正樹 様



▲国和会(11.20)
【写真左から3番目】 国和会 副会長 玉城 徹也 様
【写真左から2番目】 同会 専務理事 金城 竜治 様
【写真左から1番目】 同会 事務局 島袋 准 様
【写真右から2番目】 本会 会長 湧川 昌秀 様
【写真右から1番目】 本会 事務局長 高良 正樹 様

「第45回芸能の夕べ」を
開催します

県社協では、「社会福祉
活動資金づくり・第45回芸
能の夕べ」を開催します。

協賛出演団体の協力のも
と、琉球舞踊をはじめ、古
典音楽斉唱、日本舞踊、尺
八と格調高い芸能の数々を
愉しんでいただき、社会福
祉活動へ御協力ください。
皆様の御来場を心よりお待
ちしております。

【期日】
◇平成31年2月3日(日)

【場所】
◇沖縄コンベンション
センター 劇場棟

【協賛出演団体】
◇沖縄新進芸能家協会
◇都山流尺八沖縄県支部
◇西川流沖縄県支部

【入場料】
1,500円(一枚)
お問い合わせ先は県社協総
務企画部まで
☎098-887-2000

編集後記

表紙の作品の作者伊藤さんの「人生楽しまないと」という言葉が
心に残り、今後の人生について改めて考える機会となりました。

表紙の作品



作品名:「お気に入りの場所」
作成者 伊藤 俊雄 さん

その後、教室に通い、本格的に写真を始めて5年以上が経つ。表紙の作品は、うるま市のピオスの丘で昨年6月に撮影した一枚。大雨の翌日、濁った池に光が差し込み、草木が水面に映る中、一羽のゴイサギが小枝にとまっていた場面を収めている。小魚を探すこともなくゆったりとしたゴイサギの様子は、まるで「お気に入りの場所」にいるかのようだった。
写真からは、伊藤さんの優しくリラックスした表情がうかがえるようである。